

徳川氏と富士宮

天下統一

秀吉と駿河国

1582年、織田信長が死去する※1と、豊臣秀吉は、関東(相模国・武蔵国・伊豆国・上野国など)を支配する北条氏を滅亡させたほか、東北地方の大名を制圧し、1590年、天下を統一しました。

秀吉は、三河国・遠江国・駿河国・甲斐国・信濃国を支配する徳川家康に対し関東への国替えを命じ※2、駿河国には、家臣・中村一氏を置き、支配させました。

※1 1582年、信長は家臣・明智光秀の裏切りにより、本能寺(京都府)で襲撃された(本能寺の変)。

※2 秀吉は、日本の中心部に位置する5カ国を支配する家康の軍事力や経済力に脅威を感じたため、政権の中核である京都・大阪から遠ざけようとしたという説や、東北地方の大名を抑えるために命じたという説などがある。

家康の天下統一

1598年、秀吉は死去しました。1600年、関ヶ原の戦い※1に勝利した家康は、1603年、朝廷から征夷大將軍※2に任命され、天下統一と江戸幕府の成立を成し遂げました。

※1 美濃国(岐阜県関ヶ原)を主な戦場に、全国各地で戦いが繰り返され、天下分け目の戦いといわれる。
※2 全国の名を統率する役職のこと。



「天下人」家康

帰ってきた家康

1605年、家康は子・秀忠に征夷大將軍を譲りましたが、「大御所」として幕府政治の実権を握り続けました。

家康は、領国の中間地に位置する駿河国・駿府(静岡市)を本拠地に定め、駿府城の改築が終わった1607年、17年ぶりに関東から駿河国へ帰ってきました。

家康と富士宮

関ヶ原の戦いの後、家康は、家臣・井出正次に駿河国の支配を任せていましたが、駿河国へ帰ってからは、幕府の領地となった土地の面積などを調べるため、検地を行うなど、政治に直接関わりました。

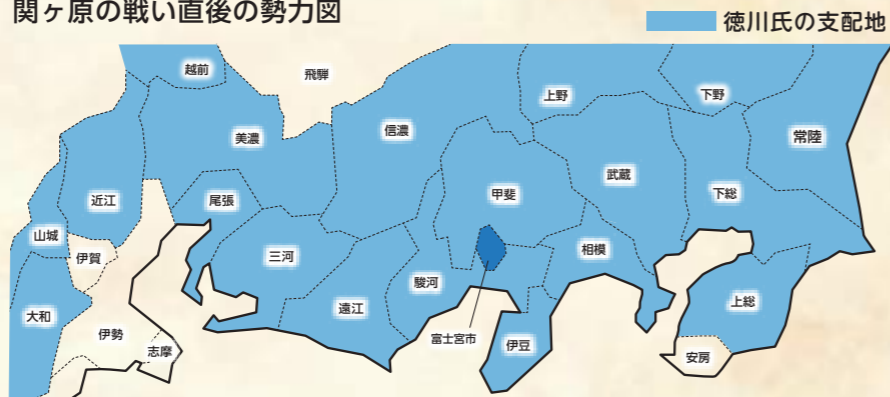
検地は、富士山興法寺(村山浅間神社)や大宮浅間神社(富士山本宮浅間大社)、上井出・源道寺・狩宿などで行われたことが、古文書に書かれています。



▲慶長十四年酉八月当山内検地水帳写(1609年8月/富士山興法寺・村山浅間神社蔵)



関ヶ原の戦い直後の勢力図



- | | | |
|----------------------|---------------|-------------------|
| 相模 (神奈川県西部) | 上総 (千葉県中部) | 尾張 (愛知県西部) |
| 武蔵 (東京都・埼玉県) | 三河 (愛知県東部・中部) | 美濃 (岐阜県南部・愛知県の一部) |
| 伊豆 (静岡県伊豆半島・東京都伊豆諸島) | 遠江 (静岡県西部) | 越前 (福井県・岐阜県北西部) |
| 上野 (群馬県) | 駿河 (静岡県東部・中部) | 近江 (滋賀県) |
| 下野 (栃木県・群馬県の一部) | 甲斐 (山梨県) | 大和 (奈良県) |
| 常陸 (茨城県) | 信濃 (長野県) | 山城 (京都府南部) |
| 下総 (千葉県北部・茨城県南西部など) | | |

家康と大宮浅間神社

1606年、家康は関ヶ原の戦いでの勝利を記念して、大宮浅間神社(富士山本宮浅間大社)の本殿や拝殿、楼門などを建てました。

このとき、本殿は、全国的にも珍しい浅間造(楼閣造)と呼ばれる2階建ての構造で造られ、現在、国指定重要文化財となっています。

現在、富士山本宮浅間大社に残る古絵図には、江戸時代の境内の様子が描かれています。



本殿の西側から徳川家の家紋の装飾が確認できます



徳川家の家紋「三つ葉葵」



▲浅間大社境内絵図写(社頭古絵図) (富士山本宮浅間大社蔵)

家康と富士山

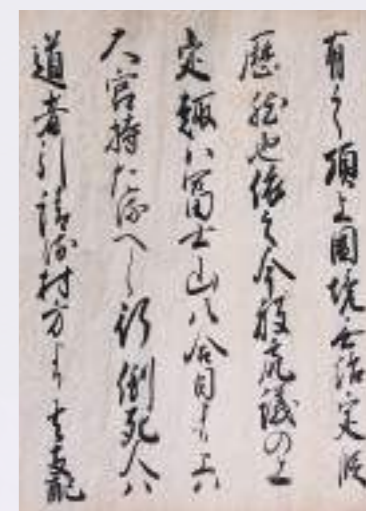
江戸時代、富士登山をして家族の安全や幸せを祈る「富士講」という組織が江戸を中心に発展するなど、多くの人々が富士山頂を目指しました。

富士講や登山者は、山頂でご来迎(ご来光)を拝み、大日如来(仏)がいると考えた噴火口にお金を投げ入れる散銭(賽銭)の儀式を行いました。

1609年、家康は、山頂の散銭を大宮浅間神社の修理費用として寄付したとされています。他の登山口も、山頂での権利を主張したため、裁判となりましたが、1779年、大宮浅間神社が富士山の8合目以上を支配することが認められました。



▲江戸時代の浮世絵師・歌川国輝の「富士山諸人参詣之図」には、富士登山をする多くの富士講の姿が描かれています。



▲幕府裁許状写(富士山本宮浅間大社蔵)